

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。  
独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るため  
である。 （ヨハネによる福音書 3章16節、新島襄の愛唱聖句）

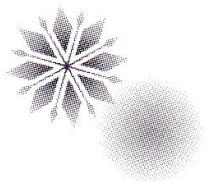
ローマ帝国の圧政に人々が苦しむ中、イエスは貧しい夫婦のもと  
で生まれました。一人ひとりの命が大切にされない時代でした。聖  
書は、暗闇の中の小さな希望の光として、幼子イエスの誕生を伝え  
ています。

新島襄もまたその希望を信じた一人でした。彼は、その希望を教  
育の力によって、この世に実現しようとし、今から150年前、京都  
の地に同志社英学校を開きました。それは暗闇にゆらめく実に小さ  
な光でした。

同志社創立から150年後のクリスマスを、同志社の歩みを支えて  
くださった皆様と共にお祝いできることを、うれしく思います。同  
志社は大きくなりましたが、新島によって灯された小さな光が放つ  
力を、これからも大切にし、それを今の時代にふさわしい形で具現  
化していきたいと願っています。

募金事業に多大なるご支援を賜りました皆様に改めて感謝申し上  
げるとともに、皆様にとって2026年が希望に満ちた一年となりま  
すよう、心よりお祈り申し上げます。

2025年12月



同志社大学長 小原克博

